

公開講座 シネマで学ぶ
「人間と社会の現在」シリーズ8

透明な傷

いま
—「現在」を生きぬくことから—

開催日時・場所

「包帯クラブ(118分)」 「青い鳥(105分)」

3月19日(土)、20日(日)

京都シネマ (四条烏丸下ル COCON 烏丸3F)

17:00 上映開始

* 上映後対談あり、19:30 終了予定

参加費：一般¥800

* 立命館大学教職員・学生・京都シネマ会員は¥500

* 事前予約無し、当日券のみ京都シネマにて販売

お問い合わせ先：立命館大学人間科学
学研究所・事務局 / 〒603-8577
京都市北区等持院北町 56-1
TEL：075-465-8358
FAX：075-465-8342
E-mail：ningen@st.ritsumeai.ac.jp
http://www.ritsumeihuman.com/

主催：立命館大学人間科学研究所
立命館大学生存学研究センター /
共催：京都シネマ / 協賛：株式会
社オリエントコーポレーション /
協力：東映、日活、アニメプラネット /
企画コーディネイト：中村正
(応用人間科学研究科教授) 神谷
雅子 (京都シネマ代表、産業社会
学部教授) / 企画協力：pprk
(Produce Planning Ritsumei Kan
：映像学部学部生有志)

対談：中村正＋近藤真奈
(映像学部学部生)

関東近県の町を舞台に、傷付いた場所や風景に
包帯を巻いて癒すという「包帯クラブ」を結成した
高校生たちを主人公に描く青春映画。



原作 天童 荒太 主演 柳楽優弥
(ちくま書房刊) 石原さとみ

包帯クラブ



対談：藤信子さん＋近藤真奈
(大学院応用人間科学研究科教授)

人は弱いから、強くなろうとする。
でも、強くなると、ならなくていい。頑張るだけで、いいんだ。
今より少しでも、人の気持ちを想像するだけでいいんだ。



原作 重松 清 主演 阿部 寛
(新潮社刊)

青い鳥

《第63回 毎日映画コンクール 男優主演賞受賞》



透明な傷—「^{いま}現在」を生きぬくことから…— の開催にあたって

この公開講座は、映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されています。

上映後の対談や講義とあわせて、時には奇想天外で、たまには刺激的な、どちらかといえば胸騒ぎのする発想に学びつつ、私たちの視界を広げる試みとして位置づけています。この企画は、結論のないあるいは結論がひとつではない対話を楽しむ「道楽」としてのシネマ人間学を楽しもうとするものです。

シリーズ8は「透明な傷—「^{いま}現在」を生きぬくことから…—」です。私たちは辛い経験をします。その痛みは傷となつてうずまきます。でもそれはいつまでも痛いわけではありません。周り自分が傷をみつめ、痛みを感受し、癒そうとする仲間の行動と強いやさしさに包まれ、ひとつの物語になることで、痛い過去は共生にむかう未来への希望になります。傷を癒すことのできる他者たちとのかかわりを私たちはどのくらいもっているのでしょうか。行動することから始まる回復（かいふく）への希望は、痛い過去から共生の未来にむかう「^{いま}現在」のすごし方のなかにあると思います。なお、今回のシリーズは映像学部有志の協力を得てテーマと内容を企画しました。「若者たちの現在」と同期させていきたいと考えています。

包帯クラブ

2007/日本/118分/東映/監督：堤幸彦/出演：柳楽優弥、石原さとみ、田中圭、貫地谷しほり、関めぐみ



3/19
17:00

©2007包帯クラブ製作委員会

人生をあきらめてしまう、その前に。

【チェック】 心に傷を負った人々を癒すため、依頼の場所に包帯を巻いて回るクラブを結成した若者たちの青春ストーリー。「家族狩り」の天童荒太が書き下ろした原作を、『明日の記憶』の堤幸彦監督が映像化した。奇抜な行動を繰り返す主人公ディオを『誰も知らない』柳楽優弥、ディオと出会う女子高生ワラを『北の零年』の石原さとみが好演するほか、注目の若手キャストが集結。人知れず傷ついている少年少女たちの心の再生劇に胸が熱くなる。

【ストーリー】 大切なものが少しずつ失われていく毎日に、嫌気がさしている女子高生のワラ（石原さとみ）は、ある日、病院の屋上のフェンスを乗り越えようとする。そのとき、奇妙な関西弁を話す入院患者の少年ディオ（柳楽優弥）が、突然ワラの前に現われる。手首に傷を負ったワラの心の傷を見抜いたディオは、ワラの手首からほどけ落ちた包帯をフェンスに結び付け……。

青い鳥

2008/日本/105分/日活・アニープラネット/監督：中西健二/出演：阿部寛、本郷奏多、太賀、山賀教弘、中帆登美、伊藤歩



3/20
17:00

©2008「青い鳥」製作委員会

大人は、みんな、十四歳だった。

【チェック】 ベストセラー作家、重松清の同名連作短編集の中の作品を映画化したヒューマン・ドラマ。いじめによる自殺未遂が起きた中学校で、傍観者となったクラスメートたちときつ音の教師との交流を丁寧につづる。ハンディキャップを持ちながらも生徒たちと真摯（しんし）に接する教師を阿部寛が熱演。複雑さははらむいじめ問題に真正面から向かう教師の言葉を通して、生と死や救いなど多くのことを問いかける。

【ストーリー】 いじめによる自殺未遂などなかったかのような、平穏な新学期を迎えた中学校。そこへ新たに赴任してきた極度のきつ音である臨時教師の村内（阿部寛）は、事件後転校した被害者生徒の机を教室に戻すように命じて生徒たちに衝撃を与える。そんなある日、いじめに加担したことに苦しむ真一（本郷奏多）は、その苦しい胸の内を村内にぶつけるが……。

藤 信子（ふじ のぶこ）

大学院応用人間科学研究科教授。専門は、臨床心理学、コミュニティ心理学、集団精神療法。『Rehab-精神科リハビリテーション行動評価尺度』（三輪書店）、『対人援助の心理学』（朝倉書店）、『コミュニティ心理学ハンドブック』（東京大学出版会）など。



経 講
歴 師



中村 正（なかむら ただし）

産業社会学部・大学院応用人間科学研究科教授。専門は、臨床社会学、社会病理学、男性学。『家族のゆくえ』（人文書院）、『対人援助学の可能性—「助ける科学」の創造と展開』（福村出版、編著）、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』（作品社）など。

本企画は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」とグローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点の研究成果として広く社会に発信するものです。

3月19(土)、20(日) 連日 17:00

当日料金：一般 800 円、立命館大学教職員・学生、京都シネマ会員 500 円
* 事前予約はありません、各日京都シネマにて当日入場券を販売します。

京都シネマ
KYOTOCINEMA
四条烏丸下る西側 COCON 烏丸 3F
TEL:075-353-4723
http://www.kyotocinema.jp

